

## モルシージャ

昔、お互いとても愛し合っ<sup>あ</sup>てはいても、けんかをしないではいられない老夫婦<sup>らうふうふ</sup>がいました。けんかするのを避<sup>さ</sup>けることはできなかったのです。朝、目が覚めると早速けんかが始まりました。

「昨夜は全然眠れなかったわ。あんたは一晚中いびきをかいていたのよ。」と妻が言うと、夫がそれに答えて、

「もうはじまったよ。最初にわしに言うことって、わしを非難することだ。今日もいい日になりそうだ！」

このように二人は夜までけんかを続けていきました。

夫は日々を家で過ごしていたため、妻のやることすべてに口をはさむことをやめませんでした。

「おまえ、服を取り込んでやろうか？雨が降りそうだね。今日の食事は、何を作ろうか。メルルーサかい、それとも鶏肉かい？娘に電話したかい？…」などなど。

すべては善意から言っていたのですが、妻は、一日中、管理されているような感じがして疲れていました。ほとんどいつも、同じようなことが起っていました。夫婦は、前日の口論を続けるか、あるいは新たな口論を始めました。ときには、一日以上、お互いに話もしないことさえもありました。

ある日、一人の妖精が家にやってきました。二人のけんかを聞いて大変残念に思い、夫婦がけんかをやめるかどうかを確かめるため何かしようと考えました。

「私<sup>わたし</sup>はいい妖精よ。あなた方を助けてあげたいの。」と二人に言いました。

彼らは、少し驚きましたが、一瞬、口論するのをやめて、妖精の話<sup>はなし</sup>を聞きました。

「あなた方にプレゼントをするわ。あなたが望む最初の3つのことがかなうでしょう。」それ以上は何も言わずに行ってしまいました。

老夫婦は、お互いに顔を見合わせて、どう考えていいやらわかりませんでした。何<sup>なに</sup>も言いませんでした。なぜなら、また新たな口論が始まると直感したからです。妻は台所へ行き、夫は居間に残りました。

2時間が過ぎて、昼食の時間になりました。すると突然、居間の窓からモルシージャのいい匂いが漂ってきました。というのも、隣人が昼食のためにモルシージャの支度をしていたからです。

夫がその匂いをかぐと、言いました。

「今、モルシージャが食べられればなあ。」

すると、まさにその瞬間、テーブルの上にはものすごくおいしそうなモルシージャが現れました。

「なんて、すばらしいんだ。きっと、すごくおいしいぞ。」夫は満足して言いました。

そのとき、妻が居間に入ってきて、テーブルの上のモルシージャを見ると、不思議そうに尋ねました。

「そこにあるそのモルシージャ、どうしたの？」夫は答えました。

「これがわしが最初に望んだことさ。ほら、みたかい！やさしい妖精は、わしらにこれをくれたんだ。」

「あんたは、私たちの最初の望みをこんな愚かなことに使ったのかい。ごらんよ、モルシージャを頼むなんて。お金とか、何かもつと価値のあるものを頼むことだってできたじゃないの。そうすれば、モルシージャをたくさん買えたわよ。なんという無駄遣いかしら。考えられないわ。」といらいらしながら言いました。

「モルシージャなんて、あんたの鼻にくっついちゃえばいいのよ。」

そういうや否や、モルシージャが夫の鼻にくっついてしまいました。

かわいそうな夫は、どうすればいいのかわかりませんでした。鏡で自分の姿を見ると、びっくり仰天しました。彼自身、りっぱな鼻をしていましたが、モルシージャがついていると、悲惨な姿となっていました。それを取ろうとしましたが、その試みは無駄でした。モルシージャは取れず、妻がそれを引っ張れば引っ張るほど、鼻がますます赤くなりました。

「今度はどうすればいいんだ。こんな鼻じゃ、外に出られんぞ。」と、夫はほとんど泣きながら言いました。

「心配はいらないわよ。」と妻が彼に言うと、「見えないように袋を作ってあげるわ。それですべては解決よ。」

しかし、どんなに試してみても、どの袋も夫を満足させることはあ

りませんでした。うまく呼吸することができず、しかもまったく似合いませんでした。

「このままじゃいけないよ。とんでもないことだ。」と夫は言いました。「鼻からモルシージャが取れますように。」

その瞬間、望みはかないました。

妻は激怒しました。なぜなら、すべての望みを使い果たしてしまったからです。テーブルの上に、「プレゼント」としてモルシージャが残っただけでした。夫は、妻がモルシージャが鼻にくっついてしまえといったことで、最後の望みを使わなければならなくなったと妻のせいにしました。

結局のところ、ご想像の通り、またもや何日も口論をするためのいい口実を見つけることになりました。

めでたし、めでたし、これでおしまい。

pdfelement